

平成30年度通常総会及び記念講演会を開催しました。

東北情報通信懇談会は、5月17日（木）仙台市において平成30年度通常総会を開催しました。

総会では、平成29年度事業報告、会計報告及び監査報告が承認され、平成30年度事業計画案及び予算案等が満場一致で決定されました。また、総会に引き続き記念講演会を開催しましたのでその概要を報告します。



会長挨拶（要旨）

開会にあたり、鎌田宏会長（東北六県商工会議所連合会会長）から、次のとおり挨拶がありました。

「東北情報通信懇談会はこの1年、各専門委員会において、災害に強い街づくり、復興の加速化、地域の活性化・発展に繋がる事業に取り組み、更には情報リテラシーの向上と会員相互の情報交換を促進するため、事業計画に基づいた各種講演会、イベント等を積極的に推進し、地域社会に貢献することが出来ました。

特に平成29年度においては、新たな取り組みとして、地域情報通信委員会に「東北地域IoT実装推進協議会」を設置し、「地域IoT実装アクションプラン」を策定しました。そのアクションプランの一つの取り組みとして、地方公共団体が抱える地域課題を募集し、その解決の糸口を大学・企業等から求めることにより、地域課題の解決を図るため「地域課題解決マッチング会」を実施しています。また、東北地域IoT実装「東北事例集」の作成に取り組むなど、東北地域のIoT実装に向け大きく舵を切った一年となりました。

当懇談会として、情報通信に深い関心を持ち、またその発展に強い使命感を持った東北地方の「産・官・学」の関係者の力を結集し、引き続き東北地域における震災と原発事故からの一日も早い復興と創生の実現、更には東北地域全体の安全な活力ある社会の実現に向け、積極的に活動を行ってまいります。」



来賓挨拶（要旨）

来賓の伊丹東北総合通信局長から、次のとおり挨拶がありました。

「会員の皆様には、懇談会の目的に賛同され、その目的を達成するために様々な事業に精力的に取り組んでいただいていることに対し感謝を申し上げます。

東日本大震災から7年が経過し、着実に復興は進展しているが、福島原発被災地一帯をはじめ、多くの方々が震災前の生活に戻れていないという実情があり、引き続き、復興創生を加速していく必要があります。東北総合通信局では、通信・放送等のICT基盤整備、ICTを利用した地域課題解決、これらに積極的に取り組むとともに、皆様方とよく連携をして進めていきます。

産学官連携団体である東北情報通信懇談会会員との情報共有や、課題解決に向けての検討など、連携体制を一層強化し、取り組みを具体化していきたいので、皆様ご協力をお願いします。」



議案

平成 30 年度の役員を選任と合わせ、次の議案が満場一致により決定されました。

〈平成 29 年度事業報告及び平成 30 年度事業計画等〉

根元運営委員長から平成 29 年度事業報告として、各専門委員会において取り組まれた ICT フェアや講演会、セミナー等、全国でトップレベルの 45 事業を実施したことが報告され、「東日本大震災を経験した地域として、復興の着実な推進、災害に強いまちづくりに係る事業に取り組み、東北地域の活性化に貢献できた。」との発言がありました。

平成 30 年度事業計画案では、ICT/IoT により東日本大震災からの復興を支援するための活動を行うとともに、地方公共団体が抱える様々な問題や課題を解決し、安心・安全な暮らしの確保、元気なまちづくりの推進、ひとにやさしい ICT 環境の整備、更には情報リテラシーの向上と会員相互の情報交換を促進するための各種講演会、イベント等に取り組むことが提案されました。

〈事務局の変更に伴う東北情報通信懇談会会則の改正〉

事務局を置いておりました株式会社インテリジェント・コスモス研究機構（事務局長 大宮 恭）から、新たに株式会社ソフトウェア開発内に事務局を置くことの提案がされました。

新事務局 株式会社ソフトウェア開発 代表取締役社長 酒井 紀之（新事務局長）

記念講演会「IoT が加速する社会」

講師 大阪大学サイバーメディアセンター長、教授 下條 真司 氏

下條先生には、「IoT が加速する社会」という題で次のとおりご講演をいただきました。

一番最新のインターネットの形は、Internet of Things (IoT) とわずに、Internet of Everything と言うことが多く、インターネットにいろいろな物がつながっているのが現在の状況になっている。一言でいうと、コネクテッド (connected) とも言われ、また同時に、ビジネスのデジタル化という言い方もしている。

今日の話として、Agility、加速するということについてお話しします。恐らくこれから先の世の中の動きというのは、すごく早く進む、変化が加速的に進んでいくということが、今まさに起こりつつあるということ。それをさらに拍車をかけているのが AI というもので、ここではとにかく大量のデータを、非常に高速に分析する。それによって、結果的に、自動化の助けをして、それが様々に絡み合っただけから社会を支えるデジタルなプロセスになる。このプロセスによりものすごく早く変わっていくだろう。

IoT の活用事例として、各戸に設置してあるエアコンのサーモスタットに自動室温等調整機能をアプリでクラウド化し、電源の使用の平準化をした場合、結果、町全体の電源ピークカットにつながり、電力会社が必要以上の電源供給もなくなり、そのコストダウンとして、そのアプリ会社にペイバックがあるような形のビジネスモデルが既に外国では存在している。

(中略)

今後、IoT というものは、とにかくものすごい速さで変わっていきます。ICT に関していうと、現状のいろいろな資源や、様子を見ながら最適化するために AI によって加速される。

問題は、人間の社会がそれをどうやって受け入れるかということが、非常に大きな問題になるのではないのでしょうか。

